

黒板もノートもすべてがiPadの中に

5

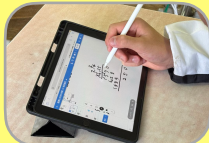
10 JUN. 2025

課題が共有され学びが深まっていく

柳澤先生の授業では黒板も個人のノートも全てがiPadの中で進んでいきます。ペンシルは日常的に使われていて、紙のノートに鉛筆で書くのと同じように書き込まれています。友だちに説明する時にも、図の中に自由に書き込みをしながら議論が進められていました。そして、そのやりとりの全てが「ポートフォリオ」として記録されていくので先生も児童もいつでも振り返ることができます。（取材：2025年1月）



①今日取り組む問題は複雑な立体の体積の求め方をくふうすることです。今まで学習した方法をもとに子どもたちは問題を解き始めました。



図への書き込みや筆算などは全てiPadにペンシルで書き込んでいます。この教室ではノートは使われていませんでした。



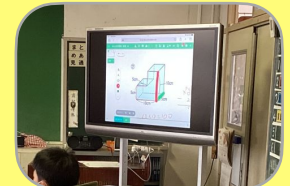
②個人で問題に取り組んだ後、出てきた疑問を持ち寄って友だちとの追究が始まりました。図の中にどんな書き込みながら議論しています。



③学級の中であらわれた解き方は3種類ありました。代表の児童に「黒板課題」機能を使って1つのキャンバスに貼り付けてもらい全体での議論になりました。



④3種類のうち、今までになかった解き方について追究を行なっています。複雑な立体の底面積と高さが、図のどこにあたるかが不明確になっています。



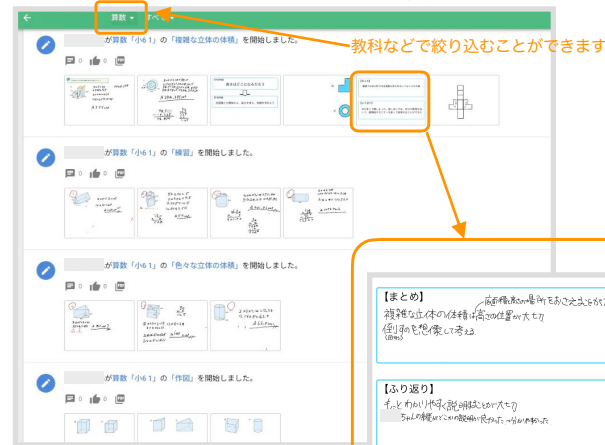
⑤これまでの議論によって学習問題「高さはどのようになるだろう」が明らかになってきました。



⑥児童は「底面積との関係から高さを考え、体積を求めよう」という学習課題に取り組んでいます。自然と友だちと黒板の前に集まって再び議論が始まりました。

学びのすべてを記録

スクールタクトのポートフォリオ機能



児童生徒は1年間といった長い時間で振り返ることができます。

先生はペーパーテストでは測れない思考力・判断力の評価にも使えます。

教科などで絞り込むことができます

【まとめ】
複雑な立体の体積は高さを求めることが大切で、底面積と高さを求めることが大切だ。
【ふりかえり】
この授業を通して、高さを求めることが大切だ。
また、友だちの考えを参考にすることが大切だ。

⑦授業のまとめと振り返り。本時の学びが記述されています。また、友だちの説明が自分の思考に役立っていることが記述されています。

単元をきちんと分類

スクールタクトの「らくらく授業準備」機能も



各教科毎単元を整理して表示しています。学習指導要領から自動で単元をつくる機能も便利です。

⑧授業前の休み時間にささっと教材づくり。先生は、個人に配布する課題と黒板課題「みんなの黒板」を作成しています。